

しおんだより VOL.57



薬局薬剤師による病院での研修を続けています

昭和から平成の半ばごろにかけては、病院完結型の医療が主流でした。調子が悪くなると病院に入院し、そこでその原因となった病気に対して治療を行ない、体調が良くなれば退院するというもので、その前後に、地域の医療機関と連携する必要性はそれほどなかったのではないかと思います。

現在は、卒後5年目の若手薬剤師が2名、地域包括ケア病棟での研修を行っています。

しかし、高齢化が進み、常日頃から近隣の医療機関にかかりながら投薬を受けておられる方がほとんどになってきましたし、やはり年齢が上がると一定の確率で介護を受けられる方も増えてきました。そうすると、元々薬を飲んでいた方、また、介護を受けておられるのであれば、服薬介助を受けておられた方が入院される方がほとんどになります。入院中に、従来の疾病の治療を継続しながら、新しく治療を行いますので、投薬内容は変更になることも多く、それを退院後も、続けていただく必要があります。

そうすると大切なのは、病院の薬剤師と地域の薬局の薬剤師がきちんと連携して、継ぎ目のない（シームレス）な薬物治療を支えることが大切です。この「薬薬連携」は重要性が指摘されてきたものの、なかなか効果的には行われてきませんでした。

そこで、当院では、地域で主に在宅医療に従事してきた薬局薬剤師に病院での研修を受けて頂いています。薬局での経験から、こういった情報や支援を病院は提供すれば良いのかがわかりますので、薬薬連携の質が少しずつ上がっていることを実感します。これからも、こういった取組を通じて、皆様に安心・安全をお届けできればと思います。

思温病院、インスタやってるってよ！

当院は、私が赴任して10年が経過しました。病院のあり方も、手術にも重点を置いた外科系の病院から、大阪市中でも高齢化が進む西成区において、地域の方々に安心・安全と思っていただけるトータルケア病院を目指しそのあり方や位置づけは大きく変わってきています。

180度に近い方向転換ですが、これを可能にしているのは、現場で活躍して下さっている多くのスタッフです。中でも、患者さんやご家族に一番多く接する看護師さんは、この10年で大きく変化し、みなさん熱心に活動して下さいます。

そんな看護師さんの日常を伝えるinstagramを本格的に始めました。是非、一度このQRコードからのぞいてみて下さい！



スタッフの皆さんも、積極的に参加していただき、見応えのあるコンテンツになっています。動画もあって、面白いですよ！

大阪土産は、ホンモノのニセモノ！？

私が、北海道医療大学の客員教授を拝命していることもあり、定期的に講義や講演に札幌を訪れます。今年も、7月7-8日の二日間、大阪から向かいました。

空港のお土産屋さんで、ふと目にとまったのが、「大阪新名物」と銘打った「面白い恋人」でした。大阪人的には、「あの北海道土産のパロディか、面白いことやったなあ…」とクスッと笑って終わりなのですが、確か、訴訟に発展した、日く付きのお菓子だったと思います。



名前は似ていますが、並べてみるとデザインは全然違いますね。北海道の方は、ホンモノを初めて見た！と喜んでいただけました。

訴訟時の和解案か、パッケージのデザインなどは、かなり変わったように思いましたが、名称はそのまま、しゃれも効いていて面白いので、小さいパッケージをいくつか購入し、現地でお世話になっている方にお渡ししました。

反応はどうなるかなと少しドキドキしましたが、「あー！これ！ホンモノや！」とめっちゃくちゃウケて大阪人としてはうれしかったです。確かに、これは、ホンモノのニセモノやなあと思いながら、一人、ニヤニヤしていました。（文責：狭間研至）

しおんだより 第57号 発行日：令和7年7月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

〒557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp